

お祭り満喫八日間の旅



江藤 ヤエ子

二月下旬、甥の嫁・智恵子さんを誘い、ツアーに参加した。

二月二十四日、二十一時二十分、関西空港に集合する。男性一名で他は女性だった。二十三時二十分発のトルコ航空機でイスタンブールに向かう。

二十五日、イスタンブール着、五時四十五分。約二時間待ちで、七時五十五分発の機でベニス着九時二十五分。何時の間にか男性の姿が無い。添乗員に尋ねると、「親戚の方に不幸があり、日本に帰られました」とのこと。葬儀には顔を出さないと、いけないだろう。

外国に行っていたなどと言われるよりは、ツアー代は惜しいが諦めるしかない。

空港から水上タクシーでホテルに向かい、荷物を置いて、市内観光に行く。色々な服装をした人達に会い、写真を撮した。両親は普通の服装で子供に可愛い服装をさせている家族もいた。智恵子さんは仮面（眼鏡）を求めて、直ぐに掛けて歩いていった。私も求めたが、帰宅してから壁に掛けて眺めている。ゴンドラにも乗船した。前に来た時には、私たちが乗ったゴンドラの上で男性が素晴らしい声で歌ったことを思い出した。

二十六日。ベニスからパドヴァに向かう。世界遺産の観光である。ジョットの最高傑作があるスクロヴェーニ礼拝堂を見た。宗教画が壁全面に描いてあった。午後はジェノヴァへ向かう。約三六八キロのバスの旅だった。到着して夕食は名物のイカと豆を煮込んだブ



ベニスにてカーニバルの人々と



ベニスの水上タクシーで

リダという料理が出た。

二十七日。ジェノヴァ観光。コロンプスの家を観た。ゲストハウスとして利用されていた貴族の館も見た。昼食後、マントンに移動する。「レモン祭り」で約一四五トンの柑橘類を使用したオブジェが並んでいた。「海底二万里」が今年のテーマだそうだが、海底のイメージは感じなかった。マントンの街には街路樹も柑橘類が植えてあったが、実の付いている木があり、それは酸味の多い木だった。鹿児島の桜島ミカンに似た小蜜柑の木もあった。此処に三時間過ごして、モナコ公国へ。世界で二番目に小さな国である。夜景が美しく、私たちは歓声をあげていた。ホテル（フェアモントモンテカルロ）に到着。夕食はチキン料理だった。

二十八日。午前中はモナコ観光。グレースケーリーが眠るモナコ大聖堂や大公宮殿に行

く。公室御用達のチョコレート店「シヨクラトリー・ド・モナコ」にも寄る。大繁盛の店で、皆、お土産を求めていた。買い物をしている間に、添乗員は、私たちのパスポートを預かり、モナコの入国スタンプを貰ってきた。その後、フラゴナール香水工場に行く。

昼食後は、自由行動になり、智恵子さんは友達になった人達と散策に出かけたが。私はホテルの近くを歩くだけにした。急に雨も降り、別のホテルから傘を借りてホテルに戻った。すると、智恵子さんが、傘を返しに出かけてくれた。ホテルの裏側のホテルだったそう。

自由行動になった時、グランカジノを覗いてみた。此処には、カジュアルな服装では入れないので、私もワンピースに着替えて行ったが、カジノをする気はないので、直ぐにホテルに戻った。夕食はポーク料理だった。

三月一日。ニースに移動。約二十分で着いた。紺碧の海岸線が続くプロムナード・デ・サングレをバスから眺めた。マセナ広場では「美食の王様」の写真を写した。王冠を被った大きな人形が右手に御馳走の皿を持ち、左手にナイフを持っていた。それから花市に行く。美しい花が沢山あった。時間があつたので、展望台に登り「天使の湾」を眺めたりして、昼食までの時間を過ごした。

昼食はニース風サラダを食べた。昼食後、観覧席からニースのフラワーパレードを見た。数年前にはブラジルでもパレードは見ているが、その時は、夜で帰国前夜でもあり、半分しか見ずにホテルに戻ったので、今回は、初めから終わりまで見学できて嬉しかった。沢山の花で飾られた色鮮やかな山車が次々に通る。山車の上には美女が乗っていて、観客席にミモザの花を投げしてくれるのだが、私は籬



ニースのフラワーパレード

運が悪く八列目で、前列の人にしか花は届かないのだった。

パレードが終わってフリータイムになった時、前列にいた人が、ミモザを分けて下ったので嬉しく戴いた。夕食までの時間、祭りが終わり、開店したお店を覗き、買い物をした。夕食後モナコへ戻る。

二日。朝食後、モナコから約七キロのエズに行く。此処は驚の巣村と呼ばれているようで、石畳の可愛い街並みだった。周囲からの襲撃を逃れるために築かれた村だった。昼前にニースに戻り、各自で昼食をとる。十四時五十分発の機でイスタンブールに向かう。約二時間五十分で着いた。此処で六時間待ちである。智恵子さん達は、店を覗いて歩いていたが、私は椅子に腰掛けていた。

三日。零時五十分発の機で関西空港に向かう。約十時間五十分で関西空港着。十八時

四十五分だった。皆と別れ、智恵子さんと大阪駅に向かい、二十一時四分発の新幹線で熊本に向かう。

四日朝、熊本着。甥が駅に迎えに来ていた。私は高速バスで鹿児島に戻る。帰宅したのは、丁度昼だった。

(エッセイスト)

